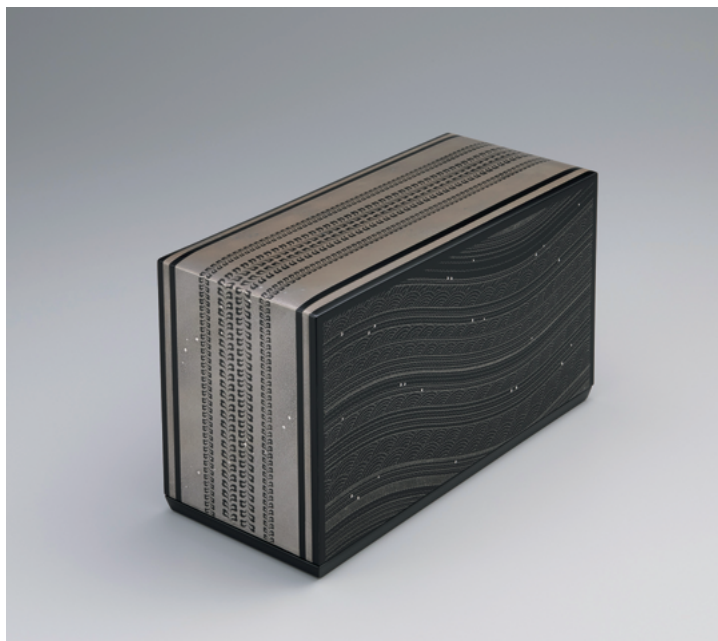


## 第72回日本伝統工芸展金沢展



朝日新聞社賞 水尻清甫《沈金象嵌宝石箱「希海」》  
—「第72回日本伝統工芸展金沢展」より—

- 香りにまつわる道具【前田育徳会尊經閣文庫分館】
- 石川県の文化財【古美術】
- 特別展示 戦後80年 石川の近現代美術  
—再生と創造への挑戦—【近現代絵画・彫刻】
- 優品選【近現代絵画・彫刻】
- うつわに描く 一色絵磁器の世界—【近現代工芸】

- 企画展Topics ひと、能登、アート。
- 10月の行事予定
- 令和7年度土曜講座のお知らせ（10～3月分）
- ミュージアムレポート 美術館でスケッチGO！

各種団体展(第7～9展示室)

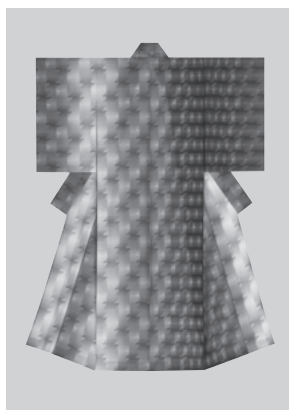
# 第72回日本伝統工芸展金沢展

主催／石川県教育委員会・日本放送協会金沢放送局・朝日新聞社・北國新聞社・公益財団法人 日本工芸会  
後援／富山県教育委員会・福井県教育委員会

10月31日(金)～11月9日(日) 会期中無休(最終日は17時終了)



日本工芸会総裁賞  
和泉香織《硝子重箱「織花」》



高松宮記念賞  
神谷あかね《生絹着物「万葉綺譚」》



文部科学大臣賞  
木村美智子《桐塑布和紙貼「星取り」》

伝統工芸は、単に古いものを模倣し、従来の技法を墨守することではありません。伝統こそ工芸の基礎になるもので、これをしっかりと把握し、父祖から受け継いだ優れた技術を一層錬磨するとともに、今日の生活に即した新しいものを築き上げることが、我々に課せられた責務であると信じます。

昭和25年(1950)、文化財保護法が施行され、歴史上、若しくは芸術上特に価値の高い工芸技術を、国として保護育成することになりました。その趣旨にそって、昭和29年(1954)以来、陶芸、染織、漆芸、金工、木竹工、人形、諸工芸の7部門にわたり、日本伝統工芸展が開催されてきました。

金沢への巡回展は昭和38年(1963)の第10回展から始まり、以降は毎年開催されています。全入選作品542点の内から、重要無形文化財保持者(人間国宝)や受賞者らの秀作に加え、地元北陸の作家を中心とした入選作品を併せた287点を展示します。

本年は石川県から全国最多の61名が入選し、朝日新聞社賞《沈金象嵌宝石箱「希海」》水尻清甫(漆芸)が入賞しました。また今年度、重要無形文化財「釉下彩」保持者(人間国宝)の答申を受けた、中田一於の新作《白銀釉裏金銀彩叢文鉢》もご覧いただけます。名工のわざが織り成す、多様な美の共演をご堪能ください。(文中敬称略)

## ■観覧料

一般…900(800)円

大学生…600(500)円

65歳以上…800円

高校生以下無料

※( )内は20名以上の団体料金

※身体障がい者・精神障がい者健康福祉・療育手帳をお持ちの方、またはミライロIDをご提示の方および付き添いの方1名は観覧無料

## ■記念講演会

日時…11月2日(日) 13時30分～15時

演題…「ものづくり」としての工芸

講師…村上隆氏(高岡市美術館館長・大正大学教授)

会場…美術館ホール(聴講無料・申込不要)

## ◆展示作品解説

日時	11時～	13時30分～
11月1日(土)	《染 織》山下 郁子	《漆 芸》林 暁
11月2日(日)	《金 工》般若 保	第72回展記念講演会
11月3日(月・祝)	《人 形》高田 和司	《陶 芸》中田 一於
11月4日(火)	《染 織》四ツ井 健	《金 工》中川 衛
11月5日(水)	《陶 芸》田島 正仁	《漆 芸》西 勝廣
11月6日(木)	《染 織》毎田 仁嗣	《陶 芸》吉田 幸央
11月7日(金)	《金 工》原 智	《木竹工》福嶋 則夫
11月8日(土)	《漆 芸》小森 邦衛	《木竹工》角間 泰憲
11月9日(日)	《木竹工》佐竹 巧成	山崎 剛 (金沢美術工芸大学 教授 ・石川県輪島漆芸美術館 館長)

古美術(第2展示室)

## 石川県の文化財

10月10日(金)～11月9日(日) 会期中無休

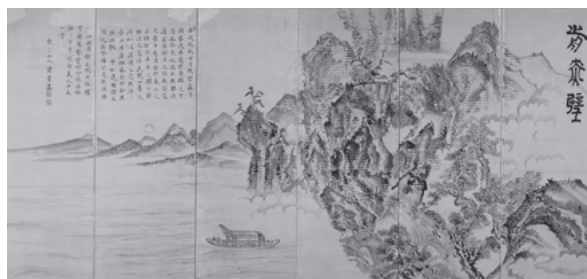
今回は、加賀国一宮として知られる白山比咩神社所蔵の国宝《剣 銘吉光》と重要文化財《太刀 銘備前 国長船住長光》、そして曹洞宗の古刹大乘寺が有す

さまざまな作品を展示しています。

今回は、加賀国一宮として知られる白山比咩神社所蔵の国宝《剣 銘吉光》と重要文化財《太刀 銘備前 国長船住長光》、そして曹洞宗の古刹大乘寺が有す

毎年11月1日から7日までの1週間は、国の定める「文化財保護強調週間」です。当館では例年この期間にあわせて、県内の文化財を紹介する展示をおこなっています。

重要文化財《仏果碧巖破関撃節(一夜碧巖集)》や重要文化財《羅漢供養講式稿本断簡》などをご紹介します。また「能登の大雅堂」として知られる池野親了(1753～1830)の大作、志賀町指定文化財《赤壁図屏風》を15年ぶりに展示します。観了は能登国羽咋郡赤住村(現在の志賀町赤住)の恩恵寺の住職の子として生まれ、京都で仏教を学ぶ傍ら、池大雅(1723～1776)に画技を学びました。本作品は重要文化財に指定されている大雅の《前後赤壁図屏風》(文化庁保管)を写したもので、観了の大雅学習を考える上で重要な作品です。



志賀町指定文化財 池野親了《赤壁図屏風》(右隻) 個人蔵

前田育徳会尊經閣文庫分館

## 香りにまつわる道具

10月10日(金)～11月9日(日) 会期中無休

特集展示「香りにまつわる道具」では、前田育徳会が所蔵する作品のなかから、香道具・香合など、香りを楽しむために用いられた道具の数々を紹介いたします。

香りに関する古い記録は、『日本書紀』の推古天皇の時代の記述にみることができます。流れ着いた香木を薪とともに燃やしたところ、香りが遠くまで漂ったため、珍しいものとして献上されたという記録です。香木は仏教儀式との関わりもあり、正倉院や法隆寺にも納められています。

江戸時代になると、大名の婚礼調度に香道具が含まれるようになります。特に香の組み合わせを聞き分ける組香用の道具をまとめた十種香箱は、その代表です。例えば《村梨子地唐松唐草御紋時絵十種香箱》には、盆略手前に用いる香盆、香を聞くために用

いる聞香炉、香木や銀葉を入れる重香合、香札を入れる札筒、香札を納める札箱と硯、銀葉盤、火筋・灰押・羽箒・銀葉挟・香匙などを入れる香筋建、折据が納められています。

一方、香りを聞くことに、遊技的要素を加えたのが、盤立物です。江戸時代中期にかけて流行しました。手に鷹を据えた十人の鷹匠と鶴・雉・鴨・鶯・鳩などが向き合い、それぞれを進めて競う鷹狩香。官女を従えた玄宗と楊貴妃が向き合い、玄宗側が持つ梅枝、楊貴妃側が持つ桜枝を取り合う花軍香のほか、闘鶏香・源平香などがあります。

本特集では、あわせて《堆朱柿図香盆》《青貝梅図香盆》など、中国の明時代につくられた香盆も紹介します。



《村梨子地唐松唐草御紋時絵十種香箱》



## 近現代絵画・彫刻(第6展示室)

### 優品選

10月10日(金)～11月9日(日) 会期中無休

今回の近現代絵画・彫刻の優品選は第6展示室にて開催します。第3・4展示室で開催する特別展示でも紹介しますが、戦後、石川県の日本画界において、重要な指導者が多く存在しました。なかでも昭和47年から52年(1972～77)まで金沢美術工芸大学で教鞭をとった西山英雄は、高い指導力で多くの後進を育てました。現在も「西山門下」として多くの作家が活躍しています。日本画分野は西山門下の作品を中心に展示します。

油彩画分野では、藤森兼明《アドレシオン・サンタマリア・アスンタ》にご注目ください。イタリアの大聖堂の巨大なイコンから着想し、金・黒・赤の3色がビザンチン美術の荘厳な輝きを放っています。不滅の聖なるものと儚い命、石川の洋画壇の重鎮・高光

一也に学んだ女性美を対比して表現する、藤森による「アドレシオン」シリーズの大作です。

素描作品からは、宮本三郎の《女優像》をご紹介します。宮本は多くの女優をテーマに制作しましたが、その中で生涯に何度もモデルをつとめたのが、今回ご紹介する作品の無名の女優です。このモデルの彫りの深い顔立ちやキリっとした美しい目元が気に入って、テーマを変えて何作も制作しています。

彫刻分野では、高田博厚《腰かける女》をご紹介します。「彫刻家は内部のものが形を構成する知恵を学ぶ。〈形〉とは内部から押出る力の極限・限界なのだ。内部の力を一元的な形体、簡潔率直な形に要約するのが彫刻」と語る作者。本作の力強く優美な肉体表現からもその精神が生かされていることが分かります。



高田博厚《腰かける女》

## 近現代絵画・彫刻(第3・4展示室)

### 特別展示 戦後80年 石川の近現代美術 —再生と創造への挑戦—

10月10日(金)～11月9日(日) 会期中無休

太平洋戦争の終結が表明された昭和20年(1945)8月15日。その直後より、石川の美術界では復興運動が早々に始動します。とりわけ公募美術展「現代美術展」の開催は、戦時中の従軍や疎開、制作・公開の規制などで沈滞していた芸術活動への、喜びに満ちた再出発の契機となりました。昭和21年(1946)には金沢美術工芸専門学校が開校し、第一線の作家たちが後進育成にあたります。また昭和34年(1959)には当館の前身である「石川県美術館」が設立され、全国でも先駆けた動きが県内で展開されていきます。

昭和20年代後半から30年代にかけては欧米の最新の美術が紹介され、日本の美術界では「アンフォルメル(非具象絵画運動)」旋風が到来しました。それまで

の具象表現とは極めて対照的な、身体や筆の動きの偶然性、エネルギーが鮮烈な色彩と表現を特徴とし、熱狂的な流行をみせます。石川の作家たちもまた、怒濤のような国際的な抽象主義に翻弄されながらも、自らの表現を模索していきました。

さらに石川ゆかりの芸術家たちの活動の場は国内外に広がり、新時代を模索しながら独自の表現を切り開いていくことになります。身近に存在する豊かな自然・文化・伝統は作家の感性を育み、また自らに息づくアイデンティティとなり、個の表現に結実していったのです。終戦から現在までの80年にわたる石川の近現代美術の歩みと、いまを生きる世代に繋がれた芸術のバトンを、当館のコレクションを中心として絵画・彫刻分野の視点から辿ります。



高光一也《フードの女I》

# ひと、能登、アート。

11月15日(土)～12月21日(日) 会期中無休

令和6年(2024)1月に能登半島地震、9月には奥能登地域において豪雨災害が発生しました。被災した人々に寄り添い、心を癒し励ますため、東京国立博物館が中心となり、東京所在の各文化施設等と呼び掛けて、所蔵する文化財に復興への祈りを込めたメッセージを託す事業を企画しました。そうした「ひと、能登、アート」事業において大きな役割を担うのがこの展覧会です。

本展は、東京所在の美術館・博物館等が連携し、本事業趣旨に賛同する各所有者が自ら選び、復興を支援する想いを込めた文化財を、石川県金沢市内の3館―石川県立美術館、国立工芸館(会期:12月9日(火))、令和8年3月1日(日))、金沢21世紀美術館(会期:12月13日(土))、令和8年3月1日(日))で展示するものです。石川県立美術館は、国宝2件、重要



重要文化財《湖畔》黒田清輝 東京国立博物館蔵

# うつわに描く ―色絵磁器の世界―

10月10日(金)～11月9日(日) 会期中無休

色絵磁器は、磁器の素地に赤、黄、緑、紺、紫などの上絵具で、花鳥や幾何学文様などが描かれた磁器の総称です。中国・明時代の景德鎮で誕生した色絵磁器の技術は、日本では17世紀に磁器生産が始まったことをきっかけに、各地へ広まっています。

石川県は九谷焼の産地です。17世紀に当地で誕生した色絵磁器である「古九谷」を源流とし、現在も、その伝統と革新を融合しながら、様々な作家によって制作されています。九谷焼は、「九谷五彩」と呼ばれる緑、黄、赤、紫、紺青を駆使した濃密な色彩に特徴があります。

本展は、九谷焼のエッセンスの1つである、器に描くこと＝絵付けに注目したものです。器をキャンパスのようにして描かれた様々なモチーフや景色は、絵画とは違う味わいがあります。展示では、古九谷か

ら始まり、明治期に世界へ輸出された近代の九谷焼、戦後から現在活躍している色絵磁器作家の作品を辿りながら、色絵磁器の魅力に迫るものとなっています。

現代の色絵作家の描くモチーフは、絵画と同じように写生をもとに描かれる場合が多いです。例えば、柴田有希佳は、自然の草花を描くことにこだわってきた作家です。植物を描くことに心地よさを感じると語る柴田のスケッチが、作品の土台となっています。また、器の形、モチーフと余白のバランスの調和も見どころとなっています。

うつわに描かれた、様々な色絵磁器の世界をお楽しみください。



柴田有希佳《笹文台付長皿》

## 第7展示室

# 第37回二科会写真部 石川支部公募展

10月16日(木)～20日(月)  
会期中無休(17時30分閉室)

皆様方におかれましてはご健勝のことと拝察申し上げます。二科会写真部石川支部公募展二年に一度の開催の時期が近づいてまいりました。

テーマ・自由 石川県内在住の写真愛好者(プロ・アマ問わず)

支部員、無鑑査、会友、会員、名誉会員、写真技術の向上や写真鑑賞をより身近に楽しんで頂きたく存じます。110点出品します。二科会写真部石川支部会友、会員、名誉会員、16名の入選 出品作品も同時展示となります。

今年は、テーマ作品(春)と題して、各1点設けて 展示いたします。皆様方が参加し日頃の精進の成果を発表させて頂く事といたしました。

創造的写真表現で、二科会写真部石川支部全国最前線に並ぶ作品展示です。各自のカラーがより強く発揮されバラエティーに飛んだ作品展になったと思っております。雰囲気を感じ取っていただけたらと思います。

ご観覧のほどをお願いいたします。

◇入場無料

◇連絡先 二科会写真部石川支部 支部長 神谷義夫

電話・090-6817-0882

## 第7・8展示室

# 第78回示現会金沢展

10月9日(木)～13日(月・祝) 会期中無休

昭和22年(1947)、具象の飽くなき美の探求を目指す同志が集まり洋画の示現会を結成しました。

今年第78回を迎え、今春、国立新美術館で展示された作品と支部小作品を併せて70点余りを展示します。

尚、今年新たに金沢展で小作品の一般公募を行い、一般の方の力作も同時展示致します。

当会の目指すところの具象絵画の魅力をお伝えできればと思っております。

多くの方々にご覧戴ければ幸いです。

※土曜、日曜の13時30分より作品解説が有ります。

◇主催 一般社団法人示現会、示現会石川県支部、北國新聞社

◇入場無料

◇連絡先 示現会石川県支部長 吉塚春生

電話・090-4325-3732

## 10月の行事予定

### ■のびのび鑑賞デー

作品について感じたこと、思ったことを、お話ししながらコレクション展を楽しめる日です。

※ただし、通常の開館日のお客様同士の会話を制限するものではありません。

日時：10月12日(日)9時30分～18時(展示室への入室は17時30分まで)

会場：2階コレクション展示室

\*のびのび鑑賞デーのご利用に、特別な手続きは不要です。

### ■対話で！作品鑑賞会

対話をしながら、作品鑑賞を行います。作品への知識はいりません。よく見て、おしゃべりしながら、ゆっくりと美術館で過ごしてみませんか？

日時：10月12日(日)11時～11時30分 \*申込不要

集合場所：2階 コレクション展示室前

定員：10名程度(先着)

料金：要コレクション展観覧料

\*友の会会員のみなさまは、会員証のご提示で無料

### ■土曜講座

10月18日(土)「いしかわの色絵を楽しむ」

講師：奈良竜一(学芸主任)

日時：13時30分～15時

会場：講義室 \*聴講無料、申込不要

## 第8展示室

# 風の会第9回展

10月16日(木)～20日(月)会期中無休

春の風にフワリと浮かぶ雲。タンポポの綿毛がフワフワと飛び、モンシロチョウがヒラヒラと舞う。夏の河岸では飛び交うホタルの群れ。頬をなでるこちよい風等を考えている時に、ふう(風)を思い付き、また、全員の気持ちが一致しました。自由で新しい発想による絵画制作を目的として平成28年(2016)より石川県在住の作家をはじめ、モデルをお願いしている金沢美術工芸大学の学生も含めたメンバーで作品発表の機会を設けています。

◇入場無料

◇連絡先 江守マリ子 金沢市長町1丁目3-36

電話・076-221-3588

辰村浩子

電話・090-3297-5361



# 令和7年度土曜講座のお知らせ(10～3月分)

当館学芸員が日ごろ研究しているテーマや、開催中の展覧会に関連したテーマで行う講座となっております。お気軽にご参加ください。

各回13時30分より15時まで。事前申し込み不要、聴講無料です。

※都合により内容を変更、または中止する場合がございます。最新情報は当館公式ウェブサイトにてご確認ください。

月／日	テーマ	担当
10月18日	いしかわの色絵を楽しむ	奈良 竜一
11月29日	高村光雲の古仏復元事業	寺川 和子
12月6日	《老猿》の彫刻家が見た明治の美術界―高村光雲『幕末維新懷古談』を読む	竹内 唯
12月13日	美術作品保管のキホン(文化財の虫菌害)	寺川 和子
2月21日	スライドトーク・鴨居玲	日置 樹也
2月28日	鴨居玲の生涯	前多 武志

## ミュージアムレポート

### 美術館でスケッチGO！

8月11日(月・祝)に2階コレクション展示室で「美術館でスケッチGO！」をおこないました。簡単に描くことができる磁気式ボードを使用して、展示室でスケッチを楽しむ、どなたでもお気軽に取り組めるイベントです。参加されたのは小さなお子様連れのご家族、お友達同士、金沢旅行の記念にという方など。最初は面白そう、と、気軽に参加されたはずなのに、作品を前に「なにを描こうか」と熱心な視線。これと決めた作品を見つめる目は真剣そのもの。終了時には「この作品かいたよ」「この作品いいなあ」という弾んだ声が聞こえていました。展示室で作品を前にスケッチができる、あまりない機会となります。また次の機会もお見逃しなく！皆様のご参加をお待ちしております。



# ひと、能登、アート。

企画展Topics

会期：令和7年11月15日(土)～12月21日(日)

会期中無休



《丹鶴青瀾》平幅百穂 東京国立近代美術館蔵



重要文化財《麗子微笑》岸田劉生  
東京国立博物館蔵



重要文化財《伝源頼朝像》東京国立博物館蔵



《松梅孤鶴図》  
伊藤若冲  
東京国立博物館蔵



《祇園祭礼図》サントリー美術館蔵

## 次の展覧会

令和7年11月15日(土)  
～12月21日(日)  
会期中無休

前田育徳会 尊経閣文庫分館		第2展示室	
加賀藩の美術工芸I		久隅守景の四季耕作図	
第3・6展示室	第4展示室	第5展示室	企画展示室
優品選 【近現代絵画・彫刻】	ロック&メタル 【近現代彫刻】	うつわに描く 一色絵磁器の世界ー 【近現代工芸】	ひと、能登、 アート。

## ご利用案内

### コレクション展観覧料

一般 370円(290円)  
大学生 290円(230円)  
高校生以下 無料  
※( )内は団体料金

### 開館時間

午前9:30～午後6:00

### カフェ営業時間

午前10:00～午後6:00

10月の休館日は  
6日(月)～8日(水)

知識・経験ゼロから  
デザインを学んで  
在宅ワークを実現しませんか。

TRY IT, NOW.  
Design Life

広告代理店が運営する **デザインスクール**

キテンスクールの  
オンライン授業なら…

- 1 オンラインで好きな時間に  
マイペースで学べます
- 2 スキルアップ・副業・転職  
独立・趣味に活かれます

詳しい資料の  
ご請求はこちら

キテンスクール  
〒569-0071 高槻市城北町1丁目14-17  
tel:072-668-3275  
運営/株式会社ウィット

広告

石川県立美術館だより  
第504号(毎月発行)  
2025年10月1日発行  
〒920-0963  
金沢市出羽町2番1号  
Tel:076(231)7580  
Fax:076(224)9550  
URL <https://www.ishibi.pref.shikawa.jp/>

石川県立美術館は電源立地地域対策  
交付金を活用して運営しています。